

山首上人さまご講演

因縁をよくする道

いんねんしよしょう
因縁所生のこと



「ハマユウ」

あらゆることがつながりあっています

人は誰もが、自分の力で生きていると思
っているのではないでしょうか。しかしよ

く考えてみると、大勢の方のお世話になっ

ていることに気付くと思います。父母をは

じめ多くの方のご恩を頂いていることに、

まず感謝してゆかなければなりません。人

間は「因縁」に生かされているというのが

本当です。

お釈迦さまの教えの基本は「因縁所生」

にあります。この世界のことはすべて、因

と縁によって発生し、構成され、変化して
ゆくということです。

舍利弗と目連

お釈迦さまのお弟子の中で智慧第一と言

われた舍利弗と、神通第一と言われた目連

のお話です。二人は共にバラモンの家に生

まれ、幼い頃からの友人同志でした。バラ

モンの子弟として様々な教育を受けました

が、今一つ満足できなくて、サンジャヤと

いう修行者の弟子になりました。もともと頭の良かった二人は、二百五十人いた同輩のリーダーになりました。しかし、サンジヤヤの教えにも満たされなくて、理想の境地は別に必ずあるに違いないと真の指導者と教えを求め、各地を巡歴してしました。二人はお互いに、どちらかが本当の教えに出会えたら直ちに知らせよう」と約束していました。

ある時、舍利弗がラジギールの街を歩いていると、他の修行者には見られない、清らかなで落ち着いていて、神聖さを漂わせて

いる人に出会いました。舍利弗は、この人こそ自分の求めるものを教えてくれるに違いない」と思い、あなたはどなたを師とされ、どのような教えを受けておられますか」と尋ねます。すると、私はお釈迦さまの弟子のアツサジと申します。私の師は『すべては因縁によつて生じ、因縁によつて滅する』と教えられています」と答えました。それを聞いて舍利弗は、たちまちこれこそ真理に違いない」と悟り、早速目連に知らせました。目連も共鳴し、二人ともにお釈迦さまのお弟子になりました。

その時、一緒に修行していた二百五十人も行動をともしたため、サンジャヤは大変悔やしがったということです。

—— 行き会える因縁 ——

縁起の法は初期の經典に比較的たくさん出ています。一つの經典には次のようにあります。

〃世の中のことすべて因縁によって成り立つということは、私（お釈迦さま）が言い始めたからそうなのではない。私がしようといまいとこのことは『法』として

定まり、確立している〃

〃因縁による〃とは、〃どんなことも突然起こることはなく、必ず原因があり、条件が整って起こる〃ということです。

「偶然」とか「突然」ということを普通よく言いますが、仏教はそういう見方をいたしません。野球にたとえてみます。バッターが大きなフライを打ち上げた時、〃これはホームラン〃と思っても、ファウルになる場合があります。それは、そうなる因縁があったから、そうなのです。因縁が整わなければ決して、結果となって現われ

ることはないのです。

こんなことも言えます。サイフを開いて中をのぞくたびに、お金が増えているというようなことはありません。増えるにはそれなりの因縁が必要です。また、道路でどなたかに出会ったとします。偶然の出会いとも思われませんが、決して偶然ではありません。因縁が重なり合って、会うことができたのです。

三河地方にいい言葉があります。普通誰かに会ったら、出会ったという言い方をしますが、三河の人は、行き会ったと言

われます。実にいい言葉です。いかにもいろいろな因縁が重なり合って出会えた、と思えます。その因縁の一つ一つを細かく言うことはできませんが、仏教は偶然とか突然、あるいは、奇蹟ということを言わないのです。

生まれてきたことについても言えます。皆さんも私もそれぞれの家に生まれましたが、生まれる前から決まっていたということとはありません。因縁によって今のお父さん、お母さんの所に生まれてきたのです。すでに決まっていることを「決定論」と

言います。因縁を説く仏教は、その決定論

を取りません。この人生、生まれた時から

誰と結婚し、何歳で何をし、何歳で死ぬと

いうようなことが決まっていたら、何をし

ても意味がありません。そういうことはみ

な、努力により、因縁によって違ってくる

からです。

宗教によっては、神の思し召しと、ま

ず神様の意志を先に言う宗教があります。

明日の天気が晴れるか曇るかについても、

「神異説」と言って、超人的能力が働くよ

うに言う宗教もあります。しかし仏教は、

そういう考え方をしません。因縁がすべてであるからです。

—— 関連し合う因縁 ——

仏教の説く因縁のもう一つの側面は、こ

の世界はすべて関連し合っている、という

ことです。

宝前に羅網が掛かっています。その一番

端を動かしただけで、全体が揺れ動きます。

それと同じように、世の中のことはみな、

因縁によってつながり合っているのです。

最近の若い人たちはよく「関係ない」と

いうことを言います。コンビニの前に座わり込んでパンなどを食べている若者と目が合うと、関係ないのにウルセエなあ、ということを言います。本当のことを知らないから平気でそんなことを言うのでしょうか、人間は一人としてポツンとあるのではありません。みな因縁がそうなっているからあるわけで、今ある姿をよく見つめてゆかなければなりません。

また、お金がないから苦しいとか、体が弱いから辛い、と言っている、もう少しお金があつたら、もう少し体が丈夫だつたら、

といろいろ考えますが、仏教は、考えるだけでなく、そうなっている因縁を教えるのです。

私共の住むこのシャバ世界はもともと、思うようにならない世界であります。しかし、思うようになればそれでいいかという、そうばかりとも言えません。

この前テレビに一人のお笑い芸人が出ていました。最近売れ始めたとみえて、後輩を大勢連れて焼肉店に行きました。食べ終わった後、家に帰るのかと思つたら、今度は一人でまた別の店に行き、さつきより上

等とうの肉にくを食たべていました。その人ひとのお金かねで
すから何なにをしようといいいのですが、売うれ出だ
す前は貧乏まへ びんぼうで焼やき肉にくを食たべることができな
かったのかも知しれません。次つぎに場面ばめんが変かわ
って、今度こんどは故郷こきやうに帰かえりました。ところが
そのおみやげがまた、焼やき肉用にくようの肉にくでした。
そして、これは一番上いちばんじやうどう等の肉にくだ、と自慢じまんし
ていましたが、その人ひとは見ていると、肉にくだ
けを食たべて野菜やさいなどは殆ど食たべていません
でした。余計よけいなお世話せわかも知しれませんが、
そんな食生活しょくせいかつを送おくっていたら体からだにいいはず
がありません。

一事いちじが万事ばんじ、こうしたことがいえると思おも
います。思おもうようになればなつたで、その
ことによつてどこかにひずみが出て、いい
結果けつかにならない場合ばあいがあるのです。そのこ
とを縁えんとして、また別の因べつ いんが生しずずるのです。
因縁いんねんは決けつして、独立どくりつしてあるのではあり
ません。つながっているのです。
このようなことを考かんがえてゆくと、いろい
ろなことに感謝かんしゃできると思おもいます。また、
そう考かんがえてゆかなければなりません。
「オレガ」という自分中心じぶんちゆうしんの考かんがえだけでゆ
くと思おもうようにならないことが多おほくなり、

「困った困った」となってしまう。そこで、もう一つ広い心で見えてゆくのです。すると因縁のつながりに気が付き、大勢の方のお世話になって生かして頂けて、ありがたい」と思えてきます。

衣・食・住のすべて、自分一人ですべてゆかれることはありません。畑で野菜を作るにしても、太陽や空気・水・大地といった因縁の上に成り立つことです。

あらゆることがつながりあっている世界にあつて、自分も何か、自分のできること

でまわりの人を喜ばせ、力づけてゆこうというのが、お釈迦さまの教えです。それが、因縁をいいものにしてゆく大切な道です。

お釈迦さまの教えを信じ、実行してゆくことは、世の中の「もうかる」とか「もうからない」という視点でゆけば、まず「もうからない」方に入るのは間違いありませんが、お釈迦さまの教えを信仰してゆくと気分がいいからそうしてゆきましょう、と教えられるのであります。